

建学の精神		豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。					総合評価	
教育理念		建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献できる人間育成に努める。 学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。						
めざす生徒像		目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる生徒。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする生徒。						
学校教育目標		(1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2) 自ら問いを立て、他者と協働して課題解決に取り組む力を身に付けさせる。 (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。 (4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。						
昨年度の成果と課題		本年度の教育目標			具体的目標			B
[成果] ・ICT教育の充実 ・本校教育の魅力の発信 [課題] ・生徒の学習意欲の高揚及び学力の保障		(1) 自ら考え、何ごとにも積極的に挑戦しようとする態度を育てる。 (2) 礼節を重んじ、他を受け入れる誠実で寛容な態度を育てる。			・基本的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能確実にしながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。 ・探究活動をはじめ全教育活動を通して、土台である「考える力」を身に付けさせ、国際社会で通用する力をもった人材を育成する。			
分室・学年	評価項目	具体的方策	評価指標	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	課題の改善方策等	学校関係者評価	
教務部	学習指導力の向上と授業改善	昨年に続き、年間2回の授業公開期間を設け、全教員が公開期間2回のうち1回以上の授業を参観する。 授業単元や内容、工夫点等を事前に授業者に聞き取り、授業参観報告書に記入する。また、参観後は、感想・意見・助言・質問等を授業参観報告書に記入し、意見交換をする。意見交換後に授業参観報告書を授業者に提出する。	・全教員(100%)が授業公開期間中に1回以上参観できたか。 ・授業参観後、記入した授業参観報告書を授業者に提出し意見交換できたか。	B	87%以上の教員が授業公開期間中に他の授業を参観できた。「他教科の先生方からも今までとは違う観点でご教示いただき、授業改善の参考になった」「自教科だけでなく、他教科の授業を見学することで、多くの発見や刺激を受けた」「担任は、自クラスを参観することでホームルーム経営に役立った」などの声が聞かれ、昨年に続き、一定の成果を得ることができた。全教員が積極的に参観できるよう促していきたい。	教科の枠を越えて、教員相互の指導力・授業力の向上を図るため、引き続き、次年度も授業公開期間を継続して設定する。また、「授業参観報告書」に指導力・授業力の向上に向けての具体的な観点を入れることで、授業者と授業参観者が、互いに意見交換しやすいように改善する。	A	
進路指導部	完全6年制中高一貫教育の特色を活かした進路指導を推進する。年々変化する大学入試制度に対応するため、具体策を各教科・学年と連携しながら検討・実施する。	・個々の生徒に応じた進路指導を学年間で密接に連携を取りながら推進する。 ・国公立大学、難関私立大学を目指した指導体制を確立する。 ・大学入試に関わる正確な情報を共通理解のため、最新状況について情報を提供する。 ・生徒の希望進路を叶えるため、その意欲を高める指導を推進する。	・教員対象の進学研修会を実施するとともに、各種進学指導研究会に積極的に参加し、最新の進学情報を入手する。 ・生徒対象の進路講演会、進路ホームルーム等を通じて、生徒の進路に対する意識、意欲を早期から高め、行事・取組の事後検証を行う。 ・模擬試験の結果分析から得られた課題を、学年・教科と共有し、連携して克服策を探り、多様な受験方式で国公立大学、難関私立大学への合格者を全体の30%以上にする。 ・キャリア教育におけるホームルームの中で、職業等調べ、将来への希望をはくぐむ。	C	国公立大学、難関私立大学等への合格者を全体の30%に達成させることができなかった。また、旧帝大の合格者を出すことが、3年連続達成することができなかった。そもそも旧帝大への出願者を出すことさえもできなかった。各ホームルーム担任と連携して、個々の生徒に応じた進路指導を推進することができた。大学入試に関わる最新情報に関しては、生徒対象進路説明会や保護者対象進路説明会を実施し、共有することができた。実施された各種進学指導に関わる研究会や研修会に積極的に参加し最新の進学情報を入手し共有することができた。大学入試に関わる最新情報などを共通理解するための職員研修などは、志望校検討会等を通して実施することができた。	旧帝大を含めた国公立大学、難関私立大学等への合格者を輩出するため、教科指導や進路指導の方法を見直す必要がある。具体的には、まず前期課程から進路選択においてミスマッチを起こしてしまう事例が多いため、キャリア教育を通して、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力等を育成していきたい。早期の進路指導を行い、生徒が目標を持って学習できる環境を整え主要3教科の基礎力を高めるための授業や補習の実施が必要である。そのためには、教師の指導力向上が必要不可欠である。ただ達成できた項目については、次年度も目標項目として維持していきたい。加えて、最新情報を入手し職員研修を経て生徒の進路指導に役立てるようにしていきたい。	B	
生徒部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・毎朝の登校指導と定期的な下校指導 ・遅刻カードによる年間の遅刻回数の把握 ・全校集会毎の身だしなみチェック	・日直や週番活動の日誌による、日々状況観察。 ・昨年度に比べて、全体及び各自の遅刻回数が減少しているか。 ・改善を指摘される生徒が減少しているか。	B	登下校時の様子について、最寄り駅からの通学路については概ね良好であったが、電車内でのマナーについて数件指摘があり、全体及び個別に指導をおこなった。挨拶では、登校時の週番や来客にも大きな声で挨拶を返す姿が見られた。一方、校門での一礼が形骸化している。身だしなみチェックで改善が必要な生徒、遅刻が多い生徒は、いつも決まった生徒で、年間を通しての変化があまり見られなかった。	HR、学年集会、全校集会にて、ルールやマナーを守ることの重要性や必要性を伝える。注意すべき点について、全教員が共通理解のもと、見逃さず声をかける。	B	
文化図書部	昨年度より一層、の文化活動のさらなる充実を目指す。図書館利用を活性化させるとともに、蔵書の充実にも努める。	・文化活動のさらなる充実を図り、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育む。 ・図書館の運営については、生徒図書委員会を開き、貸出、返却業務や、購入希望図書アンケートの実施・集計をし、生徒により親しみのわく図書室となるような図書を選定、購入し、可能な限り昼休み放課後に開館する。	・生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことを目的に、さらには礼節を重んじた文化行事を従来どおりの4回以上実施できたか。 ・図書室においては、図書委員の活動を通して、生徒の希望図書を購入でき、週5回以上開館し、利用を促すことができたか。	B	今年度も、全ての行事がコロナ禍以前と同様に実施することができ、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことができた。中でも、文化祭は段取りに不備もあったが、屋外での模擬店や館内での演示、合唱コンクールの実施も好評であった。 図書室運営に関しては、2回の図書日より発行し、生徒対象のアンケートを実施し読書傾向の把握に努めた。普段も毎日、昼休みの開館を通して、1日あたりの利用者は平均10人程度ではあるが、図書委員を中心に貸出返却業務を行った。少しづつであるが、生徒により親しみのわく図書室となるように努めることができた。	次年度は4つの文化行事の内容を精査した上で、それらを実施したい。また、昨年同様、外部団体が募る芸術鑑賞会の機会などにも積極的に応募したい。図書館については、予算内で室内の配置換えや図書を購入し、さらなる充実を図りたい。	A	
保体美化部	学校生活を健全かつ豊かにするため、また、学習効果を高めるため、校舎内及び校庭の環境整備に努める。	・毎月1回の「安全点検の日」を活用し、施設・設備、備品の状態などを確認するとともに、清掃道具についても日常的に整備、保守点検を行う。 ・奈良教弘の「花いっぱいプレゼント」でいただいたチューリップの球根をプランターに植え、校門付近に設置することで生徒の植物に対する関心や地域との交流の活性化を目指す。 ・生徒が主体となるボランティア清掃等を計画する。	・安全点検による破損箇所の修復を100%行うことができたか。 ・生徒主体にプランターの植えつけ、設置ができたか。 ・ボランティア清掃を計画・立案し実施することができたか。	B	・安全点検を月1回行ってきたが、修復できたところもあったが、廊下のスイッチ等修復が難しい箇所もあった。 ・今年度から花の苗をやめ、奈良教弘からいただくチューリップの球根のみになったので、プランターへの植え付けをやめて、花壇への直植に変更した。 ・榎原神宮のボランティア清掃は例年通り行ったが、日程の関係上予備日を設けることができなかった。	・来年度から毎月の安全点検をやめ、その都度報告していただくように変更する。 ・プランターでの植え付けは引き続き行わない。 ・榎原神宮のボランティア清掃は、外部のボランティア団体が主催であったが、来年度からは本校が主催で実施する。加えて、安全点検の代わりに、毎月学年交代で美化委員+有志による通学路のボランティア清掃を実施する。	A	
	心身共に健康な学校生活を送ることができる生徒を育てる。 ・感染防止対策の徹底を図る。	・学校管理下での負傷等による保健室来室者数を減少させるために、疾病や怪我の予防法などの情報発信や基礎体力づくりに努める。 ・登校前自宅での検温、登校後の検温、教室の換気、手指消毒・咳エチケットの徹底を図る。	・保健室来室者の外科的主訴が、昨年度、捻挫や突き指の疑いが、8%と増加傾向にあるので、このまま増加していかないための工夫として、体育授業での十分な準備運動、「ほけんだより」の毎月の発行が実施できたか。 ・発熱生徒の登校前欠席の判断が適切にできたか、感染リスクの高い生徒への咳エチケットの注意喚起ができたか、教室の換気を徹底するために毎時間終了後の教員による確認ができたか。	B	・外科的主訴の捻挫や突き指等の疑いは減少した。 ・感染症は、生徒の意識や保護者の意識もコロナ前にもどり、体調不良の登校が増加傾向になったが、保健だよりや呼びかけにより、集団での感染は少なかった。	・体育時の準備運動の継続。 ・職員への救急救命講習会を実施し、生徒への安全な環境づくりを行う。 ・感染症の予防教育を行う。	B	
入試広報室	入学者65名以上の確保	①入試広報行事の早めの告知。 ②塾訪問の強化。特に奈良市内への塾訪問強化。 ③夏期講習前の6月に塾関係者対象学校説明会の開催。	④合計入学者数(60名以上A、55名以上B、55名未満C)	C	入学生42人という結果に終わった。昨年度から+5名である。受験者の実数(96名)から考えると、昨年度並かそれ以下の入学者(37名)でもおかしなかったが、入試改革(作文入試導入、日程変更、併串切替の締切り見直し)、入試チャレンジを使った合否基準の明確化などにより、数名の違いがでたと考えられる。今年度は入試チャレンジ後、成績が悪く、改善の見込みのなさそうな受験生に対しては、受験先の変更や併願校の受験などを塾に提案した。これは昨年までと違う点であり、希望者全員に受験を促し合格させていた50名は超えていただろうが、この取組で受験生のボーダーラインは上昇したと思われる。評価はCであるが、昨年までとは少し違って、次年度に含みを持たせることのできる結果であった。	課題は目標の入学者数を確保できないことであるが、この原因には、ブランド力のなさ、進路実績の低下、情報発信回数の少なさなど複数の要因が絡み合っている。次年度は入試広報として、まずはSNSをはじめとするインターネットツールの利用促進と、紙媒体も含めた情報発信の頻度を増やすことから始め、本校の認知度向上を図るべきだと考える。現5年生(入学生56名)が受験生の時には1年間で5回程度のニュースレターを発行した。本校に足を運び、説明を聞きたくなる情報発信を最重要課題に上げて入試広報に取り組む考えている。	C	
人権教育委員会	・学年の取組テーマに基づき、実施日・実施内容等の年間指導計画を立て、創意工夫のもとに人権ホームルームを展開する。さらに、教職員は研修の機会をとらえ、自己の人権感覚を磨くとともに研修での情報を共有する。	・人権について正しい理解や認識、また、感覚を培うため、学年の実態や状況を踏まえながら年間指導計画の立案と、それに基づく適切な指導案を作成する。また、さらに踏み込んだ学習の場として、外部講師を招いた講演会や映画鑑賞会を年度内に1回は実施する。 ・研修会等の開催要項等、実施通知文書や案内ちらしの掲示や回覧を行い、積極的な参加を促す。	・年間指導計画に基づき、計画どおり人権ホームルームを実施できたか。また、その振り返りや総括等が行えたか。さらに、外部講師を招へいして年間1回の講演会・映画鑑賞会を開催できたか。 ・研修会や講演会に、最低2名の教員の参加を促し、実際の参加があったか。	B	年間指導計画に基づき人権ホームルームを概ね計画通りに進めることができた。特に今年度は部落問題学習に力を入れる学年が増え、関連の映画鑑賞や水平社博物館見学を行うなど充実した取組が見られた。また、夏期休業を利用して取り組んだ人権作文では、生徒が様々な人権課題に強く関心をもって行うことが伺え、内容も差別は許さないという強い思いが感じられる作品が多かった。また全校生徒対象のハンセン病関連の映画鑑賞会、ゲーム依存症の講演会を実施し、ハンセン病回復者への差別意識払拭や依存症理解につなげることができた。さらに今年度は、教職員を外郭団体の研修会に参加義務制で2名ずつ参加してもらったが、研修会後に意見交流を忌憚なく行うことができ、教職員個々の人権意識の高まりが感じ取られ、この取組は大変良かったように思う。	教職員を研究団体の人権研修会へ輪番で参加を促したことは大変良かった。次年度も継続させていくことが望ましい。	A	
渉外委員会	新体制となった育友会活動が円滑に実施されるためのサポート	・聖華祭、育友会研修会等の活動のサポート ・広報誌「聖心広場」発行のサポート	・年4回の育友会実行委員会、その他活動のサポート ・広報誌「聖心広場」年1～2回発行に対するサポート ・育友会研修会などを通じた会員交流のサポート ・年間活動計画と活動内容の次年度に向けた検討と変更	B	昨年度の取り組みを継続し、所期の評価目標をおおむね達成することができたのではないかと考える。特に育友会研修会では育友会実行委員から先行きを募り、早くに日時を決めてアナウンスしたことから、昨年度の倍を上回る30名の保護者が参加し、学年を超えて交流することができた。	育友会活動は実施時期や内容がほぼ固定化されており、現状うまく回っていると思われるが、業務量が特定の役員・教職員に偏っている状況である。そのため、役員・教職員の業務負担量や負担のバランスを十分に考慮するなど、持続可能な活動を模索し続ける必要があると考える。	B	
いじめ防止対策委員会	いじめの未然防止、早期発見及びいじめ事象の対処、再発防止	・学校生活についての個人面談 ・いじめアンケートの実施(年2回) ・いじめ防止対策委員会の実施(年間4回)	・学校生活についての個人面談を各クラスで年2回以上実施できたか。 ・いじめ事象が解消又は解消方向に進んだか。 ・いじめ防止対策委員会を年4回実施できたか。	C	面談及び委員会はそれぞれ実施できた。いじめ事象の認知については、ほとんどがアンケートによるものであった。重大事態の発生があった。	あらゆる学習機会を通して、いじめはいつでも誰にでも起こりえることではあるが、決して見過ごしてはいけないことを伝える。いじめが起きないようにする方途や、起きそうになった時の対応について、子どもたちと一緒に考える機会を持つ。	C	